

「食品に関するリスクコミュニケーション（大阪）」
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 アンケートの集計結果

開催日：2004年8月24日（火）

参加者数：273名 回答数：164名（回答率60.1%）

問1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	50	30.5%
2) 農林水産業	1	0.6%
3) 食品関連事業者	46	28.0%
4) 食品関連団体	18	11.0%
5) 研究機関	1	0.6%
6) 行政関係	29	17.7%
7) マスコミ関係	2	1.2%
8) その他	16	9.8%
<ul style="list-style-type: none"> ・ BSE市民ネットワーク(1) ・ 学校管理栄養士(1) ・ 食品安全モニター(1) ・ 生協関係(2) ・ 大学講師(1) ・ 通関業者(1) ・ 分析機関(1) ・ 飲食会社経営(1) ・ 消費者団体(1) ・ 飼料製造・販売(2) ・ 全国焼肉協会(1) ・ 調理師専門学校講師(1) ・ 農業団体(1) ・ 無回答(1) 		
9) 無回答	1	0.6%

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	37	22.6%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	27	16.5%
3) 関係団体からのご案内資料	68	41.5%
4) 知人からの紹介	25	15.2%
5) その他	8	4.9%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑誌(1) ・ 食の安全・安心トピックス(1) ・ 近畿農政局大阪農政事務所(1) ・ 農水省HP(2) ・ 新聞広告(2) ・ 無回答(2) 		

問3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	58	35.4%
<ul style="list-style-type: none"> ・ とても話が分かりやすかった（講演）。ディスカッションは司会の方の聞きだしが 		

ていねいで解りやすかった。金子先生のお話は充分勉強になりました。

- ・ コーディネーターがよく議論を整理され、わかりやすかった。
- ・ 一般の人にとっても理解しやすい説明だった。
- ・ S R M除去とB S E 検査の認知拡大。安全性の公開。
- ・ それぞれの立場により、意見の相異が出ていて、パネルディスカッションとしておもしろかった。
- ・ とてもわかりやすく、活発な交換会であった。かなり専門的でわかりづらいついかな？と思っていたが、よかったです。これからもこのような会がどんどん開催されればいいなと思います。安全委員会等、各々の役割は大変と思いますが、国民の安全・安心の向上に向かって粘り強く頑張ってもらいたいです。
- ・ 行政の取り組み方が良く判る。
- ・ 国産牛についての検査体制は良く理解できる。一方、輸入牛肉（米国産）についての再開はいつになるのか、交渉過程はどうなっているのかを知りたい。
- ・ この様な機会を増やしてほしい。
- ・ お互いの意見・情報を交換し合って、あいまいな不安感を取り除いて、現実的な対応策を進めてもらいたい。
- ・ 今まで積極的に意見交換会が開催されていなかった。開催されるようになり評価します。
- ・ 現状認識を深めることができた。最新の状況を共有化できた。
- ・ 意見を言うことができた。現在のB S E 対策の中身がよく理解できた。
- ・ 一部の人の考え方でなく、いろいろな人の意見が聞ける為。
- ・ 前段の解説と、後段のディスカッションの連携がとられている。とくにディスカッションでは立場の違うものが域を狭めて密度の高まる話になっていた。行政の発言では、通り一遍とうでコミュニケーションの主旨に欠ける内容である。
- ・ 行政の姿勢や各位専門集団の取り組みが良く判った。だがあまりにも「安全」という事を考えすぎるがゆえに、世間の台所事情が判っていない。S R Mの検査においても全頭やっても、問題なのは検査の方法、内容ではないでしょうか？私は日本も米も同じレベルだと思います（現状では）。
- ・ 情報公開の原則からいっても、この様な機会を持っていただくことは重要。
- ・ 大変わかりやすい資料になっている。
- ・ B S E についてより深く知る事が出来た。
- ・ 現在のB S E 対策について、一般の方も理解できる内容だった。
- ・ 利害関係が正確な情報を得ることによる一般大衆への口コミ効果となるので。対策等の中間状況が生で聞けて良い。
- ・ はじめに行政の取り組みが分かり、それに対して様々な視点からの意見交換があったので、今までは方向からしかB S E を知らなかったが、知識が広がってよかった。生産者側の方の発言が少なかった気がする。もう少し生産現場やえさ会社の生の声を聞きたい。
- ・ 賛成・反対の率直な意見上がった。
- ・ さまざまな立場の方の話がきけて、理解が深まった。傍聴の人の意見・質問も受け止めてもらえる時間もあり、良かったと思う。

- ・ 行政の対策が詳しくわかった。
- ・ 消費者から専門家まで幅広く意見を聞き、評価に取り入れることは意義あることであると考える。
- ・ 様々な立場の人の意見を聞く事が出来たのは、自身にとっても有意義でした。発言をより吸収するため、あらかじめ意見を募集し、いくつかの議題についてディスカッションがあればよかったと思います。
- ・ 民意の政策反映の必要がある。また正確な情報の提供。
- ・ 各々の立場の考えが分かり参考になった。
- ・ リスコミの定期的開催。
- ・ 立場の違いがあっても、公平に意見を発言する場がもうけられた点。
- ・ 公開方法のリスクコミュニケーションは良い方法で、今後は食品に限らず他の部門にも啓蒙することを期待する。
- ・ それぞれの立場からの意見交換があり、他の立場からの分からない点等がよく理解でき、どういう観点から見られているのかがよく分かった。
- ・ 忘れかけたBSEへの関心をもつ事が出来た。
- ・ 中村コーディネーターの進め方が大変良かった。

2) やや評価する

80 48.9%

- ・ 現状と問題点が明らかになり、これからこうした情報を整理して、さらに勉強したいと思いました。
- ・ 不安を訴える色が強く、消費者こそがその価格、品質を選び決める権利を持つ。安心・安全を科学者が未だ証明出来ずにいる。
- ・ もっと早くこのような機会をつくるべきでないか。時間の関係から回数を重ねるべきである。
- ・ いろいろなやり方を試しながら、よりよい意見交換会にしようという姿勢が見えた。
- ・ 関係省の努力を強く感じました。
- ・ もう少しつっこんだ議論が必要と思った。
- ・ いろいろな方の意見が聞けることが出来たこと。
- ・ 学者と一般消費者とのコミュニケーションが出来る。研究・論議がどの程度進んでいるかわかる。
- ・ 時間が極めて限定（少ない）された意見交換会には疑問であるが、開催したことは評価したい。
- ・ 今日説明した内容は、大事な所が不明である事も多かったけれども、日本での取り組みをよく理解できました。なぜ、この様な提案を米国に理解して、全頭検査を求める事ができないのでしょうか。
- ・ 現時点での取り組みについての報告で評価はできると思う。今後の課題、不確定要素についての説明がもう少し欲しかった。
- ・ 一方的な説明でなく、ディスカッション形式で行政側の受けとめが見られる。
- ・ 各業界からの代表が踏み込んだ議論があった。定量分析に対し評価する（プリオン専門調査会）。
- ・ いろいろな立場からの意見交換で参考になりました。

- ・ それぞれ立場の異なる人の意見を聞いて良かったし、今後に生かしてもらいたい。
- ・ 食品安全委員会の役割、行政の対策内容について再確認ができた。一般の消費者が B S E 問題について今現在どう感じているか参考になった。ただ一般といっても、食に非常に関心のある人の意見であろうが、どんな意見が飛び出すにしろ、参加者に発言させる時間は絶対必要と思った。
- ・ 客観的に様々な立場の意見を聞く事が出来る。
- ・ 広く意見を聞くという行政の姿勢が感じられる。
- ・ 今まで単に“ B S E ”という名前だけでしかわかってなかったが、中味まで理解する事ができ、また、さまざまな方向からの B S E 対策についての考え方がわかりました。
- ・ マスメディアによる消費者への詳細の報道を望みます。
- ・ 現状の問題点が比較的良くわかりました。
- ・ 一般に広く内容を公開することが、意見をつのることが大切だと思う。
- ・ 一般消費者はこの様な意見交換会を知らない。もっと対外的な意見の取り入れも必要では。
- ・ B S E 対策については各省別々に説明されるより、統一されたものを用意された方が理解し易い。不確定要素が多く、理解が困難な部分がある。この部分について、いかに説明し、理解を得るのが問題。誤解をさけるためにも「たたき台」であることもさらに前面に出しては？
- ・ 実施している内容は理解出来たが、それによりどの位の効果が上がっているのかが分かり辛かった。
- ・ 会場からの発言も、各階層（職業・職種）から受けた方がよいのでは。
- ・ 出来る限り数を増やしてやっていただきたい。
- ・ リスク分析の手法として意見交換が行われるのは、はじめの一步。ただ、この意見交換会が私達消費者が納得できる説明が行われないまま、見切り発車のカタチで行政の措置が決定されるのではないかという不満がある。徹底的に議論して、国民の理解を得てからアメリカ産牛肉の再開を検討して下さい。
- ・ いろんな立場の方から率直な意見をお聞きすることができました。
- ・ やはり“ COMMUNICATION ”という以上、一般の方々からの意見をもっと聞きたかったです。どうか双方 COMMUNICATION とならないでしょうか。
- ・ こういう開かれた会はとても有意義だと思う。
- ・ ごく一般の消費者の声が反映されていないように思った。（消費者団体としての運動の意見はいらぬ。）これからは中学生程度で理解できる用語を使用しての情報公開をお願いしたい。ごく一般の市民が参加しやすい工夫をお願いします。
- ・ 専門家の報告で終わらず、消費者の声が聞けた。
- ・ パネリストがそれぞれの背景をせおい、有る意味極論を戦わす中で、論点が整理されていき、問題が鮮明になった。
- ・ 1つ1つの議論についての内容がうすいように感じました。
- ・ 意見交換時間が短いと思います。
- ・ 酪農の方の苦しさがよくわかりました。
- ・ S R M 除去について、全く安心できるものではない事に新たな不安が出てきました。

- ピッシング、スタンガンなど現場まかせになっている事は、早期の改善を望みます。
- ・ 1つのリスクの限界点に向かい、様々な意見が交換されている事を評価。かなり話がまとまりつつあると思われる。国内での話し合い、米国との話し合いを早急に進めてほしい。
 - ・ コーディネーターがいわれた通り、双方向コミュニケーションをもっともっともつべき。会場、規模など、多様な展開が大切。フードサービス協会は何故出席されているのか？米国産牛肉問題をからむ以外に考えられない。米国産についての交換会があってもいいのでは。
 - ・ 一般参加者との対話の時間。(質問の時間帯が非常に少ないです。)
 - ・ リスクコミュニケーションの実践。加藤氏の意見は業界寄りすぎる。(ただし、大阪で既に何回か会議をしているので)BSEの基本から説明したが、基本をはしょって新しい情報を話してほしい。その分の知識は先に参加者アンケートで確認したら。講演者は、スライドの方にむいて説明しないでほしい。(手元に資料を置いて、聴衆にむかって話をして下さい。)金子先生の話は、前後の簡単な所が長すぎる。後の方をききたいのに、前をもっと短く端折って話し、新しいポイントを話してほしい。金子先生のスライドは字が多い。食品安全委員会に渡して、色をつけたり絵や図を入れたりしたものを作って下さい。
 - ・ もう少しゆっくりと、歯切れよく話をしてほしい(全体的に)。
 - ・ 日頃新聞か資料でしか流れてこない考え方が、金子さんの説明で基本的な考え方として理解できた。
 - ・ 新聞でとりざたされている検査の限界についての討議がなされていた。また、食品安全委員会の立場が明確に一消費者として理解できた。
 - ・ 会場との意見のやりとりの時間が少なかった。
 - ・ いろいろな立場の方の意見が聞けるので。
 - ・ 学者の説明ばかりでなかった。
 - ・ 意見を行政が反映する姿勢があるのか。ただの公聴会ではいみがないのでは。一部の参加者の意見では、いみがあるのか。
 - ・ 今後のBSEまん延対策としては評価するが、食肉業界ではアメリカからの牛肉輸入再開に対する検証、意見の集約が重要でないか？

3) あまり評価しない

21 12.8%

- ・ 一般参加者との意見交換にもう少し時間があってもよかったのではないかと思います。
- ・ 来場者の意見を述べる時間が非常に短い印象を受けた。意見交換というには余りにも不十分なのではないか。
- ・ 消費者の「安心」と云う言葉に引きまわされ、政治家の人気取りの姿勢がありあり。もっと全世界的な中よりの姿勢をとるべき。
- ・ 明確な結果のない意見交換となっている。今後どのようになるのか知りたかった。
- ・ 農林省、厚労省に専門的な部分は全ておまかせしますので(科学的な事はわからないので)。
- ・ 専門的な話を明確にまとめてほしい。つまりYes or Noをはっきりと明言

すべきである。

- ・ 各立場での目的が違う為、意見交換の意見がない。
- ・ 食品安全委員会の考えがあやふやである。
- ・ 時間が短く内容が薄く幅広くされた為。
- ・ 意見交換会というよりも、状況説明会といった感じ。
- ・ パネラーの意見は立場に片寄りすぎている。
- ・ 我々消費者の意見としては、安心を強張するあまり、食品についての供給に関し、科学者のエゴで安全性より心理的な面が強すぎるのでは。
- ・ 冒頭の金子氏による説明は、科学的に全うであると思う。ポイントは、と場より死亡牛の検査の重要性。原因因子の90%は脳・せき髄に存在し、例え新たなSRMが発見されてもそのリスクは非常に低い。牛からヒトへの種の壁は科学者から見ても間違いなく存在する。以上のポイントが、その後の感情論らしき意見より弱まってしまった印象を受ける。
- ・ 質疑応答等、BSEがあたかも世界一恐ろしい人間の病気であるような意見に偏っているのではないか？
- ・ 行政の一方的説明だけで書く関係団体、たとえば副生物、油脂の説明がなかった。
- ・ 前半の資料を読めばすむ。講演は省略してもよかった。テーマをあらかじめ公開した方が良いのでは（パネルディスカッション）。
- ・ これがどういうふうに関係するのかよくわからない。厚生労働省の役人は、と畜場をその目で見たことがあるのか？（複数ヶ所）。どういう人がどのくらいの割合で参加しているのかが知りたかった。
- ・ 新しい情報が全くなかった。議論の焦点がボケ、何を議論しているかわからなかった。
- ・ BSEの発生は、人間の食肉に対する警鐘とすべきだと思います。肉を沢山食べられる状況の実現に向けての話し合いとするよりは、現状の食肉生活を考え直す、食べる回数や量を減らす事を、原案として話し合うべきと思う。

4) 評価しない 2 1.2%

- ・ 全頭検査を引き続き行うという方向性があまり見られない。SRM（危険部位を取り除く）除去だけで事足りるとするのは間違っている。
- ・ アメリカ牛肉輸入のためのガスぬきではないか。

5) 無回答 3 1.8%

- ・ なぜ消費者が早くお美味しくて安い牛肉が食べられるかを議論しないのか。今は高い肉を買わされている。もっと消費者に任せるべきである。
- ・ 地方での意見交換会をもっとしてほしい。パネラーについては広くあつめてもらいたい。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

1) 広く関係者の意見を聴き、意見交換する行政の姿勢がみられた

2) 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた	51	31.1%
3) 対行政だけでなく、立場の異なる関係者間での意見交換が大切と感じた	73	44.5%
4) 意見交換としては、不十分だった(時間的・内容的)	81	49.4%
? 時間的(15)、内容的(5)	52	31.7%
5) 行政の一方的な説明に終わって、運営に不満を感じた	10	6.1%
6) BSE対策について理解が深まった	57	34.8%
7) その他	9	5.5%

問5 BSE問題について、どのようなことに関心がありますか？

- ・ 米国産牛肉の輸入再開について(16件)
- ・ 全頭検査について(2件)
- ・ 1人年間どのくらいの料を食べたらリスクがあるのかなと思った。血液診断、早く研究成果がでたら良いと思う。
- ・ BSE対策についての日本と外国との違いについて。VCJDについて。
- ・ 牛人、人への感染の問題。SRMの件。分析方法。
- ・ 筋肉組織はBSEのプリオンが今の所存在しないのに、輸入制限するのはおかしい。21ヶ月令でもBSEが発生しているが、もっと若牛、15ヶ月令でも発病する可能性があるのでは。
- ・ 飼料の安全性、フィードバン。と畜解体の方法とその確認、労働者の安全。アメリカのハンバーバーに使われているクズ肉の危険性。外食産業で使われるタン、ホルモンなどの危険性。政府(ブッシュ政権)と食肉業界の癒着。
- ・ 全てのものにリスクがある訳で、他のものと比較(リスクの)することによる安全度の資料公開(100%安全なものはないということを消費者に生え付ける必要あり)。飼料規制 - 弱いものいじめにならぬように規制等は慎重に。消費者にも生産者にもプラスになる国益を第一に考えてほしい。
- ・ トレーサビリティ制度の進捗状況について。米国のBSE検査状況について。感染リスクの問題。交差汚染の問題。
- ・ 米国でへたり牛(ダウナー牛)の検査をしなかったというが、日本ではどの位ダウナー牛が発生しているのか。そして、それがと畜場に行ったのか、それとも死亡牛の方へまわっているのか。へい獣処理、レンダリング業の所での症状名として、ダウナー牛の月別割合(2009年9月~現在)。レンダリングでへい死牛からの油の生産量、飼料向けの割合。H13.9~10月の月別飼料生産量(対前年比)。牛飼料用油脂の使用割合。
- ・ 国内対策について、非常に高いレベルではあると思いますが、まだ進行形である

ことが今日わかりました。SRM除去、検査の精度アップ。米国の輸入牛について、米国でのリスク管理は高くないと思います。

- ・ 今後の米国産輸入再開について。食品安全委が日本における現在までのBSE対策をどう評価するか。
- ・ BSEかんせん牛であっても“肉”部分は食べても問題ないことをかくしんした。
- ・ BSE感染のメカニズム。プリオンのメカニズム。
- ・ BSE検査の意義。
- ・ BSE検査の主目的（疫学調査としてか、または国民の安心感の確保としても役立つのか）とELISA法の科学的な限界について。
- ・ BSEというのは、食品問題の一例であり、これをモデルにした諸問題への対応、対策が必要である。あまり消費者意識に左右されすぎる行政サイドの対応はいかなものかと思います。
- ・ BSEの検出限界（発生6ヶ月前まで分からず、検査通り抜けしている）。
- ・ BSEのボクメツは日本から。日本はBSE対策のリーダーであってほしい。
- ・ BSE病原体の潜伏期間の長さ、不明な点があり大いに疑問がある。
- ・ BSE問題が何故どのように「大きな問題」となったのかが、大きな関心がある。本来、極めて「専門的な」問題であり、報道も含めて何故問題を過大視するのか、素ぼくな疑問を感じる。（他国ではどうなのであろうか。）（食への感心が高いから...とんでもない。）消費者への迎合は避け度い。
- ・ BSE問題でBSEそのものを治す研究はされていないのか。
- ・ CJDよりカムバックした人はいない。その事を忘れてはいけない。
- ・ EU、アメリカ、日本など世界統一の見解で処理して欲しい。資料3のP6の様に各国のBSE対策が違うから早急に統一の検査を確立して欲しい。まだ100%の解明が出来ていないBSEなので、グローバルスタンダードの検査法を確立して、あとは消費者に食べる食べないは自主選択にするべき。検査方法、月令牛の統一策。
- ・ SRM除去についての現場管理。検査に関わるコスト。検査の限界と今後。
- ・ SRM除去を行えば、米国産牛肉でも安全に思えます。
- ・ SRMの除去でBSEの感染が防げる(99%除かれる)が、残りの1%の問題を、どう対応、検討、結論づけるか。業界としては早く解決してほしい。
- ・ USビーフの解禁（安全性）。一般消費者の認識。
- ・ アメリカの要求ではなく、日本としての対策が今後どうなるか関心がある（全頭検査がどうなるのか）。
- ・ 安心・安全の観点から、若干コストはかかってもトレース出来るようにしてほしい。
- ・ 安心と安全は別。食品安全委員会は科学的に食の安全性を追及するべき。それを消費者、国民に説明して安心を得る。
- ・ 安全性、市場流通の牛肉にかんして。
- ・ 安全対策の基準を早期にまとめ、検証を進めて公開してほしい。
- ・ 安全を確立して下さい。
- ・ 今、我が国が全頭検査を行っています。我々生産者は安全な牛肉を食べたいので、今の検査体制を続けて欲しい。
- ・ 牛から人へ経口で感染するのか。将来的に特定部位がなくなることはあるのか。（つ

まり、どこも捨てることなく食べることができるようになるのか。)

- ・ 牛の検査のやり方について関心を持った。
- ・ 牛の飼料に牛骨粉がはいっていた。とも食い状態の中でおこったBSE問題。今安全でも、10年後、20年後にヤコブ病患者の大量発生がおこるのではないかと不安である。異常プリオンを根絶するわけにはいかないのでしょうか。全頭検査は必要。米の圧力に負けてほしくない。
- ・ お互いの立場で、どの様な認識差が有るか？
- ・ 科学的知見に基づき、全頭検査等リスク評価を行い、適切に見直すべき。
- ・ 危険部位（他の部位の安全性）とその除去法（適切か）。
- ・ 牛丼などの外食産業での復活を期待していますが（米国牛肉）、検査の違い等もあり、安心できるまで（きっちり調査する）難しいと感じました。
- ・ グローバルスタンダードが確立出来るかどうか。
- ・ 詳しい内容を知らなかったので参加しました。
- ・ 研究者の良心にたった報告が必要。
- ・ 現在BSE非発生国産牛肉の危険部位輸入の停止をしている事？（オーストラリア産Tボーンステーキ等々）。
- ・ 現在は全頭検査を行っているが、今後は月齢による検査にするのかどうか。
- ・ 国産牛の安全については納得がいきませんが、今後輸入牛についても安全が得られるようにしてほしい。
- ・ 国内の議論は全て重要であるが、食に限らず全てグローバル化しているのも事実である。サイレントマジョリティーのサラリーマンとしては、安い・安全しかも安いものが食べたい。米国をはじめ諸外国では肉は安全で安心だから食べている。その様なリスクコミュニケーションが政府より常に成されている。よって日本でもいち早く全てがクリアとなり、我々（サイレントマジョリティー）を含めた国民を正当な理論で納得させてほしい。
- ・ 今後のUS産再開時期、全世界の牛肉輸入輸出に対する安全対策の基準レベルについて。
- ・ 今後の検査のあり方。
- ・ 今後の迅速診断法。
- ・ 今後の発生頭数の推移。
- ・ 再発防止と安全・安心。
- ・ 消費者として「安心」の落とし所、まだ不明な点はいつ頃明確になっていくのか？日本の「BSE対策」はとても進んでいると確信。でも業界団体の圧力に屈することなく委員会は頑張ってください！
- ・ 消費者が安心して牛肉を利用できるよう、これからも安心・安全の確立について最善をつくしていただきたいと思います。
- ・ 消費者側のBSEリスク0（安心）を行政に全て求めるのはどうか？現代社会の人の生活にリスク0とはいえない。全てを規制するのはどうかと思う（疑いがあれば）。
- ・ 消費者の立場から全頭検査＝安全のイメージがあるが、と殺方法、解体という面でもみた場合、不要面あり。そして米国産については危険性を更に感じた。
- ・ 消費者は出された答えを信ずる事しかできないので、正確に調べてほしいです。

- ・ 初期段階での情報公開不測。SRM（危険部位）除去等の情報不足で消費者に誤解が生じた。
- ・ 食に関わる（流通）職業なので、BSE問題にまつわる日本の食環境について考える機会となっている。いずれにしても日本の産業全体の問題だと思います。
- ・ 食の安全管理。
- ・ 食品として食肉の安全性が確保出来れば良い。そもそも食品にゼロリスクもなく、BSEのリスク率は添加物以下なのではないのか？
- ・ 飼料の規制について。
- ・ 政界や業界の圧力に屈し、米国牛肉を輸入再開するのではないのか？
- ・ 絶対的に安全な食品は無いとの認識に立って、安全性を判断すべきであろうにも拘らず、際限の無い安全性追求におちいりがちである。定量的な判断基準を食品安全委員会として明確にし、その判断に基づく行政の対策を実行すべきと考えるが、今後どう対策の見直し、科学的知見にもとづき行われるか関心がある。
- ・ 全頭検査が、いつ廃止論が出されるか心配しています。まだまだ研究途上の段階でもありますし、安心と信頼のよりどころとなる検査は、少々コスト面や体外的問題があっても、現段階ではストップしてほしくありません。検出限界が主張されていますが、ドーズリスponsがあるということは検査でチェックできる限り安全確認につながっているということではないでしょうか。
- ・ 全頭検査が100%必要であるという根拠や理由がないにも関わらず、米国牛の輸入を完全に禁止しなければならないのは理解できない。とりあえず禁止にするのであれば、それによる消費者や様々な業者の影響はあまりに大きいと思う。BSEに人間が感染した場合、現在は治療法がないと言いますが、今後もみつかる可能性がないのでしょうか。医療的にはどういった進歩が現段階であるのでしょうか。
- ・ 全頭検査の継続と原因究明。
- ・ 全頭検査の継続をして下さい。
- ・ 全頭検査の体制は今後も継続するべき。アメリカの牛肉輸入の圧力に負けて、全頭検査をやめてはならない。アメリカこそ全頭検査体制を確立すべきだ。
- ・ 全頭検査の中止。月齢別での検査になること。
- ・ 全頭検査の必要性。
- ・ 全頭検査のゆくえとSRMの除去。
- ・ 全頭検査は限界がある。半分以上の感染牛がすりぬけてしまい、しかも食肉流通に回ってしまう。間違いなく安全確保の意味はない。重要であるのは、SRM除去とその検証。米国では農務省の専門検査官+数名が常駐し、それぞれ分担作業で確実に除去している。日本国内の関連情報は入ってこない。もう気持ち先行の安全策ならぬ“安心策”で論点をぼかすのは止めていただきたい。
- ・ 全頭検査をほぼ大方消費者は願っているのに、税金をはらっているものが反対していないのに、なぜ全頭検査をやめる方向にしようとするのか。
- ・ 全般、まず基本から。
- ・ 正しい知識（たとえBSEの牛肉を食べても、感染するとは限らない）ことを理解している人が少ない。輸入肉を食べるかどうかは個人の選択。サルモネラ菌を1ヶ食べても食中毒にはならない。アメリカ牛の輸入再開を望む。

- ・ 統一見解の公開。
- ・ 特定危険部位が安全・確実に除去（解体時における食肉のSRMによる汚染）されているのか否かという点。BSE検査対象月齢(牛生体内のプリオン分布と感染性)の問題（若齢牛の発生原因）。
- ・ 特定部位の除去に関して、具体的に消費者が理解出来る説明をして欲しい。
- ・ 取組みの現状。
- ・ トレサビリティー。特定部位の除去。
- ・ どんな食品にも多少のリスクがあると思います。私はタバコを吸いますが、自分のリスクで行っています。アメリカ産牛肉についても、消費者のリスクで選択出来るようにしてほしい。
- ・ 何が安全で安全じゃないのか、どこまでやれば根絶するのか。
- ・ 何が安全で何がまだ不安なのかという事。日本では全頭検査をしているとの事で、安心ではあるかと思いますが、一刻も早い段階で米国産牛肉が国内で食される事を念じております。
- ・ 日本行政に何か“奥歯に物がつまった”説明という印象を受けるのは私だけではないはず。
- ・ 日本とアメリカのBSE対策に関心があります。外食産業に勤務していますので、早く安全対策が決着するように願っています。
- ・ 日本における...と題目でしたが、米国の現状はどうか知りたい。
- ・ 日本のBSE検査がいつまでつづくのか。
- ・ 日本のBSEに対する考え方は世界的に見て特異。諸外国はその国民の安全を考えていないと日本国は言っているのと同じ。消費者団体の検査継続の意見が続くのは、今まで政府が正しくBSEのことを説明してこなかったことの表れ。政府は自覚すべき。WTOに提訴されて負けるようなことは日本政府の誇りとしてさけるべき。
- ・ 人間の身勝手から発生したものではないか。管理・生産する人間の問題が一番大きいのではないかと（京都の問題など）。消費者としては信頼できる物であれば国産、米国産どこのものでも良いのです。
- ・ 人に関する伝染・感染の程度。
- ・ 人への感染のリスクを数値であらわすのではなく、フローチャートであらわす事。その結果のリスクを数値化してこそ意味がある。その中で個人として食材をチョイスできる道を開いてほしい。
- ・ 人への感染へのリスク。
- ・ 病気そのものに対する対策。
- ・ 米国及び国産のBSE対策に対して、各パネラー及び消費者の意見。
- ・ 米国産が禁論で、何故オーストラリアはOKか？
- ・ 米国産牛肉が、現在の米国の検査状況で解禁されるかどうか。
- ・ 米国産牛肉の早期解禁。消費者の全頭検査に対する認識。
- ・ 米国産の牛肉がいつ輸入再開されるのか。BSE対策についての説明はあったが、消費者が一番興味を持っている点に対しての説明が少なかったように思う。
- ・ 米国産輸入再開時期について。米国産牛肉の安全性確保について。現行輸入牛肉の安全性について。

- ・ 米国との輸入再開について、どのような話がすすんでいるのか。
- ・ 米国の牛肉の輸入はまだ時期早々。米国の実態、情報公開を。
- ・ 米産牛肉の輸入について、十分な検査が行われるよう安全委員会からの行動を望みます。
- ・ むずかしいことはわかりませんが、主婦が家族に安全な食品を用意（調理）するためには、売られている食品（牛肉）が安全であることに不安を持たなくてよい物だけが、普通に入手できる社会であってほしいと思います。
- ・ もっとかみくだいてわかりやすい説明に努めて欲しい。
- ・ 輸入牛（米国产）について、現在の日本の基準に合わなければ再開すべきでないと思う（政治的妥協しないでほしい）。
- ・ 輸入肉について。SRMの除去について。検査について。
- ・ リスクマネジメントの施設監視等のデータ。e x 農水部門（飼料製造施設など）。

附問5 - 1 上記の関心点について、今回の意見交換会は役に立ちましたか？

1) 大変役に立った	23	14.0%
2) 役に立った	76	46.3%
3) あまり役に立たなかった	29	17.7%
4) 役に立たない	7	4.3%
5) 無回答	29	17.7%

問6 今回の意見交換会の進め方についてお伺いします。

1) 満足	36	22.0%
2) やや満足	82	50.0%
3) やや不満	33	20.1%
4) 不満	3	1.8%
5) 無回答	10	6.1%

また、会の運営等で何かお気づきの点がございましたらご記入ください。

- ・ 食品安全（創刊号）は良い。メールを使えない人にとっても利用できる。一部の個人の挨拶が長い。
- ・ 流通、消費者からの意見がやや少ない。食品安全委員会の発表について、もっとわかりやすいバージョンの説明を行い、リスクコミュニケーションをするべきである。
- ・ 意見交換会をもっとしてほしい。中間取り扱い業界の人、一消費者であり、もっと話をする中で、全体の報告性が、同じ方向になると思います。
- ・ BSE問題と食肉の人の健康に与える影響を考えるならば、パネリストに酪農家を招くのはポイントがずれていないか？
- ・ あと30分のばしても会場からの発言がほしかったと思います。参加者名簿いたできたかった。
- ・ 意見交換の時間がもっとあっても良いのではないか。
- ・ 意見交換の時間をもう少し長めに。

- ・ いすだけでなく、机のある会場が必要である。
- ・ 一般の方の意見の聞き取りが少ない。
- ・ 一般の人たちの声を聞く時間を多くしてほしい。
- ・ 一方通行的であった。
- ・ 意図的にか“全頭検査維持”に関する一般意見を多く聞かされた。公平に両派意見を公にし、その上で何が正しく何が効率で良いという結論にもっとシンプルに進められないものか。同様のスタイルでは主要都市で何回開催されても、その意義は疑わしい。
- ・ 会場がふさわしくないと思う。できたら机やメモのできる板のついているイスがよい。
- ・ 会場からのQをもう少し多く。
- ・ 会場参加者からの質問時間が短すぎる。
- ・ 会場参加者の発言時間が少ない。
- ・ 会場の意見をもっと聞いて欲しい。
- ・ 会場発言時間が短い。もっととって下さい。
- ・ 会場発言の時間もとっていただき、またパネリスト間での意見交換もあり、且、立場のちがいなども少しわかり興味深いでした。
- ・ 行政の発言は「...聞き及んでる」と現場かいいりしている。「見てきましたので安心ください」「ここに問題があるので検討している」と具体的に言及して欲しい。パネリストは熱意を感じる発言であった。
- ・ 興味深い意見交換を聞くことができました。ありがとうございました。
- ・ 議論がない。
- ・ 交換会の方法を会場の雰囲気、前回の方法を考えて内容を進める方法はgoodでした。
- ・ 最後の意見交換会は少しかたよった人の発言が多くみられ、反対意見も聞きたく思いました。
- ・ 時間。一般参加者の意見をきく時間が少なかった。
- ・ 時間が少ない。
- ・ 時間が少ない。欠席裁判(?)は避け度い。(エサのコンタミ問題を云うのであればエサメーカーの出席が必要。) 私個人は農家がミーボンを給与したことが原因と考えているので。農家は事実を明らかにして頂き度い。
- ・ 時間厳守で良かった。
- ・ 質問時間のコーナーの時間が少なかった。挙手したが...
- ・ 質問する時間がもう少しあればいいと思いました。
- ・ 自分自身よくわからなかったので、もっともっと勉強をしないとと思いました。
- ・ 出席者はどんな方々なのか。
- ・ 消費者の意見が多く、偏っていると感じた。
- ・ 消費者の意見がもっと言える場を提供して欲しい。
- ・ 消費者ももっと自己責任の心も必要と感じた。全てを(BSE)を無くすのはムリな事だし、政府も努力していると思う。
- ・ 生産者がパネラーにいたせいか、交(差)汚染は現場でもおこりうることだったと

考えます。生産者の被害者としての側面が強張されすぎていて、修正できなかったのが物足りませんでした。生産者は飼料の安全確認も含めた生産に責任をもつべきと考えます。ト場でのコンタミの可能性などは、どれだけコンタミを減らすかの論議としてなすべきであり（管理措置の問題だ）。

- ・ 説明の時間少ない ならば質問の時間を長くもってもらおう等、不消化に終わらないようにしてほしい。
- ・ 前半の資料説明は簡潔で良かった。
- ・ 立場毎の意見、大勢に偏りが出ない様配慮があり、進行運営の仕方は良かったと思う。
- ・ 地方で開催していただく努力、配慮に感謝いたします。ただ、回をかさねるごとの発展があるかは皆様でもお考え下さい。
- ・ ディスカッションするポイントが不明確だったのでは。
- ・ テレビ討論会など行ったらどうでしょうか。この様なパネルディスカッションをテレビで公開討論会として行ったら、もっと色々な立場の意見を広く聞く事が出来ると思う。
- ・ 中村先生のコーディネーター役、素晴らしかったです。
- ・ 日本と海外の対比は良く判ったが、全頭検査の必要性のみの考え方でなく、消費者が安価で食べられる肉を全国民へ戻して欲しい。
- ・ 日本におけるBSEとして、原因が理解されていないのに意見の交換してもムダ。
- ・ 農家の立場からの発生リスクについて意見があったことは、今後の生産対策に通げるべきである。それぞれの立場の意見がよく出ていた。
- ・ パネリストの意見がワンパターン。パネリストの経歴をみると、その後の意見がわかってしまう。もっと自由な意見交換会にすべき。
- ・ パネルディスカッションとか会場の意見を聞く時間がもっと必要。
- ・ パネルディスカッションの時間配分が不足しています。
- ・ パネルディスカッションのテーマをあらかじめ明らかにしてほしい。最初の（パネラーの）一巡はいらぬのではないかな。
- ・ パネルディスカッションの論点があちこちに行ってしまう、散漫な感じを受けた。
- ・ フロアの傍聴者との意見交換の時間をもっととって頂きたかった。
- ・ 傍聴される方への項目3番目は「コミュニケーション」「意見交換」の名に値しない。さくじょされたし。
- ・ 傍聴席にも机がほしい。
- ・ 本当はアメリカがWTOなどでていそしてはいけないのだと本当のことを国民に言えばよい。その世論がみかたしてくれるだろう。食料主権があるのだから。
- ・ まだ現段階の調査状況では結論が見えないことが多い。
- ・ 難しい事を考え、日々行っている事は判るが、システムそのものに経済界の心が入って無い為、スピード感がない（問題解決）（アタマでっかち、マスターベーション。）（追）入っていても専門家中心の展開の為、意味がない。
- ・ メモが取り辛いので、出来ればテーブル付きのイスが欲しい。
- ・ メモ等取りやすい机付きのイスがあればよいのではないかな。
- ・ もう少し一般の意見を聞く時間があつた方がよい。

- ・ もう少し一般の方に意見を述べる時間が欲しかった。
- ・ もう少し参加者との意見交換の時間が欲しかった。不安を感じる消費者の意見ばかりだったが、牛肉を食べたい人の（リーズナブルな価格で）自由を入口で奪ってしまうのは如何なものか？
- ・ もっと参加者の意見を聞くこと。
- ・ やはり会場からの意見が少なかった。パネルディスカッションをもう少し短くしてもよかたのでは？
- ・ 来場者の意見を電光掲示板のようなアンケート集計をできるようなシステムがあれば良いと思う。
- ・ 私の見当ちがいであるか、話の内容がV C J Dになりすぎである（主なことは分かるが）。V C J Dは日本では発生していないので、V C J Dがメインになっているのではないか。

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）	51	31.1%
2) 食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等）	98	59.8%
3) 食の安全ダイヤル	36	22.0%
4) 食品安全モニター	38	23.2%
5) 食品の安全性に関する政府広報	59	36.0%
6) その他	3	1.8%

- ・ 新聞記事、広告、ホームページ（農水省、厚労省、水産庁、このたびの食品安全委員会）
- ・ 大手スーパーにトレサビレティーの詳しい説明をした牛肉を販売している店があり、それを信用する気になった。

附問7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ あまりにも専門用語が多い為判りづらい（HP）。用語集の強化をしてほしい。説明（文章）が長すぎる為判りづらい（HP）。図解、写真の多様を希望。
- ・ 消費者が食べて安全かどうか、わかりやすくQ and A式を多く導入してほしい。具体的な予防・対策を明示してほしい。
- ・ 交差の字でよいか？（交叉か）。農水省の説明振り、スライドともにわかりやすい。せき骨髓のとり方。扁桃の危険度は日本で除去していないが理由は何に？回腸の除去は？EUは全て腸を除去しているが。MRMの世界の生産量、利用回、日本への輸出の有無、有る場合の量（安全委員会の文章で出てきていない）。若令牛は、9月中に生産された、いつもより多く肉骨粉、油脂を使った飼料自体の問題であるのでは？交叉汚染どころか、子牛用飼料に含まれていたのではないか。BSE以外の危険度の高いもののリストでの整理表。今後、日本の生産が減少すると考

えられるが、消費と生産の両方に力を入れて、自給率の向上を図ってほしい。たたき台は出したことは評価する。しかし内容はまだ不十分と考える。(現場でBSEをかくしていたこと、北海道等のへい死牛検査の遅れ等の判断をどう考えるのか。)

- ・ 3回意見交換会に出席させていただきましたが、食品安全委はとても最終とりまとめを急いでおられるようで、もっと時間をかけて国民へ説明して欲しいと思います。これで輸入再開になるなら、リスク分析手法にも失望です。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 議事録を早くPDFで出してほしい。
- ・ 今日いただいた広報、今後定期でもらえる方法を教えて下さい。
- ・ 現在の禁論が間違っている事が歴然とした。
- ・ 今回のリスクコミュニケーションで話した内容がわかりやすく、この場にはいない消費者に伝わればよいと思う。
- ・ 様々情報公開しようとしている姿勢は大変評価できると思います。
- ・ 時間、場所の制限なく、立場の違う不特定多数の消費者がネット上で自由に意見を述べる方法はないのか？またそれが公となる場も設けて欲しい。
- ・ 知っているだけで安全の内容について理解出来ているわけではない。もっとわかりやすく広報してほしい(テレビ(ニュース)等を利用して)。
- ・ 上記の媒体があっても、なかなか自由に意見を述べる機会が少なく、非常にもどかしく思う。
- ・ 消費者、生産者、サービス業、いずれも安全な食品を供給して欲しい。今後もこのような行事を広く行って下さい。
- ・ 消費者の声、消費者への情報公開もここ2~3年で大きく変化してきたことはうれしく思っています。「月~金」夕方、農水省、厚労省等のHP、安全・安心トピックスを斜め読み(すみません)させていただいております。いつもタイムリーな情報、これからもお願いします。
- ・ 消費者の不安を除去し、誰でも安心して食べられる食品が提供される流通体制づくりにまい進してもらいたい。
- ・ 食の安全ダイヤルは広く消費者に啓発し、安全性を確認することができる最良の手段だと思います。
- ・ 食の安全ダイヤルを利用させていただいていますが、疑問に答えていただき、ありがたく思っています。情報発信により得られる安心感が大きいので、今後もよろしく願いいたします。
- ・ 食品安全行政でリスクコミュニケーションが最重要と感じる。
- ・ 新聞に載せてほしい。
- ・ 全頭検査は今後も続けて下さい。
- ・ 即時性のある広報を願いたい。文書報告のみならずマルチメディア等。
- ・ 東京だけでなく、大阪でも複数回行ってほしい。
- ・ とても役に立っています。これからの発展を期待しています。
- ・ 内閣府の食品安全委員会のホームページを探すのに苦労した。
- ・ 中村コーディネーターの締め言葉が印象的であった。「科学・科学者の行ってい

ることや気持が消費者に通じているのであろうか」ということを感じる」と云うコトバです。消費者への痛烈な皮肉・批判とも云えますし、「問5」に書いたように、BSEは極めて専門的な問題であり、科学者が追及することと、消費者が求めることと、ゴールは同じとしても、過程においてはかなり異なるように思う。

- ・ 非常によく取組まれていると思います。今後も継続的にお願いします。
- ・ ホームページが見にくい。
- ・ もっと一般庶民でも解りやすいことばで説明して欲しい。
- ・ もっと回数を多く開催すべき。全体の動き、最新の情報を発信すべき。
- ・ モニター意見交換会をもっとひんばんに（月1回程度）してはどうでしょうか。
- ・ リスク評価からリスク管理へ移行する過程（意味づけ）をわかり易く説明すること。
- ・ リスク分析はわかるが、1%でも危険があればすべきでないか。またアメリカが言ってから、このような対策を（説明）している。
- ・ 利用させていただいてます。専門知識を持つ者だけでなく、より消費者に理解しやすいものを作成していただくとありがたいです。